

平成 17 年度 秋期 プロジェクトマネージャ 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1

設問 1 要件変更による納期遅延，予算超過を防ぐため

設問 2

- (1) 担当者同士で勝手に変更を行うことを防ぐため
- (2) 要件変更が契約納期又は契約金額に影響する場合
- (3) a - 決算の早期化が実現されるかどうか

設問 3

- (1) チーム X D リスク 納期が遅延するリスク  
チーム Y E リスク ・コストが回収できなくなるリスク  
・変更要求が否決され，手戻りとなるリスク
- (2) ・緊急な変更要求票を早期に回覧する方法を定める。  
・緊急時の変更プロセスを定める。  
・緊急の際の臨時 CCB 開催のルールを定める。

\* ----- \*

問 2

設問 1

- (1)
  - ・選定の手順や判断基準が不明確である。
  - ・R社へのチェックが甘くなりがちである。
- (2) ・選定の基準を客観的に整理する。  
・選定に当たっての観点の漏れをなくす。

設問 2

- (1) T社 リスク 適正な要員がタイムリに集められない。  
項目 開発要員の動員力  
U社 リスク 社員への支払ができず開発が滞る。  
項目 財務面の健全性
- (2) 問題が発生しても納期までに対応する期間に余裕がもてる。

設問 3

- (1) リスク 品質劣化や納期遅延が発生する。  
方策 R社とT社，U社との共同開発
- (2) 項目 資本金  
理由 下請法の対象企業であることを明確にする。

- (3)・定義された手順と基準に基づき委託先が選定される。
- ・委託先選定の手順と基準が開発標準に組み込まれる。

\* ----- \*

### 問3

#### 設問1

- (1) B社が開発した同種システムの実績データから類推して評価するなど、類推による評価方法について、適切に記述していること。
- (2) 内部設計後に性能評価して最終構成を確定するなど、適切な時期に再度性能評価することについて、適切に記述していること。

#### 設問2

- (1) 対策案1 開発日程に余裕はあるが、A社予算の余裕が少ない。
- 対策案2 開発日程に余裕が少なく、A社予算に余裕がある。
- (2) 解決策を上位管理者に提案して折衝への参加を要請するなど、上位管理者と協力した組織的なこう着状態の打開策について、適切に記述していること。

#### 設問3

- (1)・ソフトウェア改修によって新たなバグが発生して、稼働開始ができない。
- ・ソフトウェア改修によるデグレードで、稼働開始ができない。
- ・改修後のテスト期間が十分確保できず品質が安定しない。
- (2) 性能対策せず稼働開始し、並行してソフトウェアを改修するなど、リスクの高いソフトウェアの根本的な対策は行わず稼働開始し、稼働開始後にソフトウェアを改修して対策することについて、適切に記述していること。
- (3)・このまま稼働しても約1年間は性能的に問題ない。
- ・当面は性能が問題となるほどの負荷状態にはならない。

\* ----- \*

### 問4

#### 設問1

- ・総合テスト環境の不具合を早期に摘出でき、総合テスト環境の品質を確保できる。
- ・要員がテスト環境に慣れ、戸惑いなどなく、効率的にテストを実施できる。

#### 設問2

- 品質面 改修箇所を少なくし、不具合が混入する可能性を低減させる。
- 費用面 改修量を抑え、作業工数を少なくすることで費用を抑える。

#### 設問3

- (1) 総合テスト開始までに改修が完了しない。
- (2) 総合テストのシナリオの実施予定に間に合うように、段階的に改修を完了させる。
- (3) M社が依頼に対応できない場合でも、計画どおりにサービスを開始させるため
- (4) 仕様変更が請負契約の範囲外であるから

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。